

テンパス



TEMPUS

2022年(令和4年) **77** 号



国宝孝恩寺観音堂の現況（令和4年7月撮影）

も く じ

国宝孝恩寺観音堂 令和の大修理 その6

市立東山小学校の3年生が郷土資料展示室を見学しました

／ 市立第二中学校1年生の「地域新聞」づくりの取材活動

姉妹都市カルバーシティ市のレオ・ザ・ライオン

—貝塚市歴史展示館の展示資料から⑥—

／ 「御財印めぐり」で御財印を集めてみませんか？

「貝塚市文化財保存活用地域計画」をつくります

古文書講座—市内に残る身近な古文書— 「御巡見様御通（ごじゅんけんさまおとおり）」

／ 古文書講座68（通算320回～324回）開催のお知らせ

文化財講座・展示 ／ ブナ、イヌシデから円盤標本を採取

国宝孝恩寺観音堂 令和の大修理 その6

木積にある孝恩寺では、令和元年9月より本堂である観音堂（釘無堂）の保存修理事業が進められてきましたが、令和4年7月をもって事業は終了しました。本号では、これまで5回にわたって紹介してきた保存修理事業に関する記事のまとめとして、令和の大修理を終えた国宝「孝恩寺観音堂」の現在の姿について、保存修理の内容と修理前後の外観の変化を中心に紹介します。

屋根工事 観音堂の保存修理事業の中で、最も大きなウェイトを占めたのが屋根工事です。修理前の観音堂は、瓦の割れやずれ、欠損（写真①）のため、強い雨の時には雨漏りも発生していたことから、修理事業では全面的な屋根の葺替工事が行われました。

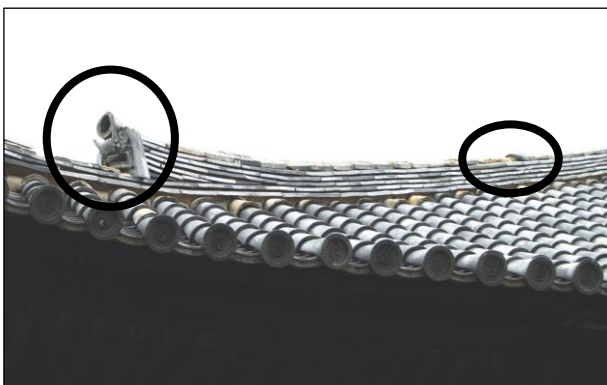
令和元年度には、堂の周囲に工事用の足場が設けられ、素屋根（すやね）と呼ばれる覆屋（おおいや）が設置されました。その上で屋根に葺かれていた1万5千枚強の瓦が全て降ろされました。

続いて令和2年度には、屋根の修理に着手し、屋根の下的小屋組（こやぐみ）や屋根の下地に使われる部材などを点検し必要な修理をした上で、屋根の全面に土居葺（どいぶき）という雨水の浸入を防ぐ板張りが施されました。また、屋根から降ろされた様々な時代の瓦も貴重な歴史資料ですので、一枚ずつ調査した上で、再利用できるものについては樹脂をしみこませて固くする補強が行われました。

そして令和3年度には、瓦が葺き直されて、全国的に類例の少ない行基葺（ぎょうきぶき）の屋根が本来の姿を取り戻し、現在は新旧の瓦がきれいに並べられた状態となっています（写真②・③）。



写真② 修理後の屋根 その1



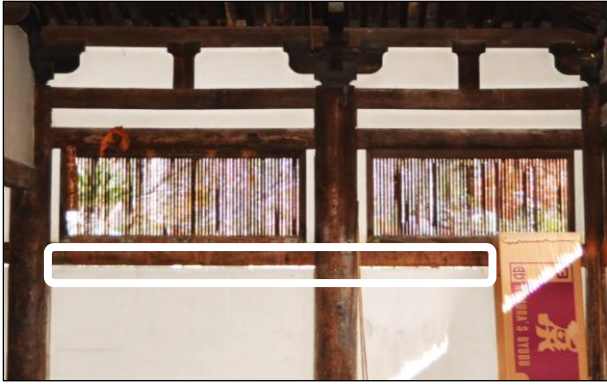
写真① 瓦の欠損がみられる修理前の屋根



写真③ 修理後の屋根 その2

左官工事 観音堂の四面の大部分は、漆喰（しっくい）壁によって堂の内外が仕切られています。修理前の漆喰壁は経年劣化によって柱や貫（ぬき）などの部材と壁の間にすき間ができた（写真④）、漆喰がはがれたり（写真⑤）、壁の表面が雨漏りの跡で汚れたりしていたことから、修理事業では、漆喰壁を解体して塗り直す左官工事が行われました。

傷んだ壁は下地を残していったん解体されました。そして、下地の補修後、壁の塗り直しが行われ、最後に漆喰が塗り直されて、真っ白な漆喰壁が復元されました（写真⑥・⑦）。



写真④ すき間が生じていた修理前の漆喰壁



写真⑥ 修理後の漆喰壁 その1



写真⑤ 漆喰がはがれていた修理前の漆喰壁



写真⑦ 修理後の漆喰壁 その2

木工事・その他の工事 上記の漆喰壁のほか、堂の内外は正背面の棧唐戸（さんからど）などの建具で仕切られ、堂の周囲には縁（えん）と呼ばれる廊下が巡っています。修理前には、こうした建具や縁板についても、開閉などによる経年劣化によって各所に傷みが生じたり、日常的に日光や雨にさらされていることから木割れが生じたりしていました（写真⑧）。修理事業では、必要な補修が行われ、縁板はすべて取り替えられました（写真⑨）。



写真⑧ 木割れが生じていた修理前の棧唐戸と縁板



写真⑨ 修理後の棧唐戸と縁板

以上、今回の保存修理事業で行われた屋根工事などについて、その工事内容と修理前後の外観の変化を紹介しました。この他、今回の保存修理事業では、本紙でこれまで紹介した耐震診断（72号）や内部の修理工事（76号）など、様々な内容の保存修理が行われた結果、大正5（1916）年以来、約100年ぶりの大規模な工事を終えた国宝「孝恩寺観音堂」がその本来の姿を取り戻しました（表紙写真）。

なお、孝恩寺では、観音堂保存修理事業の終了に続いて、表門の修理および国宝「孝恩寺観音堂」防災事業が進められています。

市立東山小学校の3年生が郷土資料展示室を見学しました

令和4年6月15日（水）、市立東山小学校の3年生47名が、貝塚市民図書館の施設見学に訪れました。当日は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、2グループに分かれて、1グループには図書館内、もう1グループには郷土資料展示室の「貝塚市の指定文化財」展 第1期（令和4年5月14日～7月3日開催）を交代で見学してもらいました。社会教育課では、後者の展示見学の説明を担当しました。

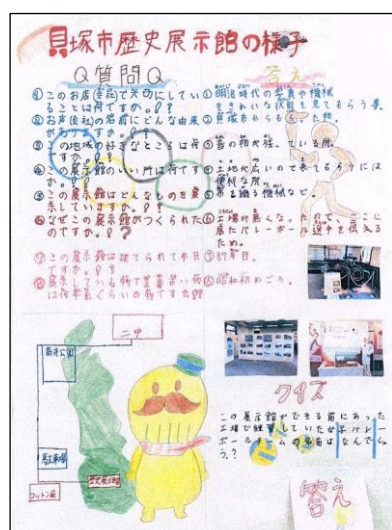
上記の展示は、地蔵堂にある前方後円墳「史跡丸山古墳」から出土した埴輪（はにわ）類、市立南小学校の敷地内から出土した「地蔵堂古墳群」の須恵器（すえき）類を中心とした展示です。そのため、まず別室のスクリーンでクイズなどを交えながら、古代のお墓である古墳の形やその種類、丸山古墳や地蔵堂古墳群の所在地などを説明した後、展示室で埴輪や須恵器の実物資料を見学してもらいました。6年生の歴史学習で学ぶ古墳や埴輪が自分たちの住む貝塚にもあったんだと、展示を通して身近な歴史に触れてもらう有意義な時間となったようです。



熱心に展示の説明を聞く子どもたち

なお、図書館の施設見学には、1学期の期間中、今回紹介した東山小学校を含め6つの小学校からのべ152名の子どもたちが見学に訪れました。

市立第二中学校1年生の「地域新聞」づくりの取材活動



完成した「地域新聞」

令和4年7月7日（木）、市立第二中学校の1年生3名が、半田にある貝塚市歴史展示館（ふるさと 知っとこ！館）へ「地域新聞」づくりの取材のために訪れました。この取材活動は、生徒たちが自身の生活する地域について学び、地域で暮らす人びと、働く人びとの思いに触れることで、自身の暮らしや今後の生き方について、生徒自らが考えることを目的に行われました。

取材では、歴史展示館の成り立ち、名前の由来、展示品の紹介、一番古い展示品は何か、といった質問が次々に投げかけられました。それらの質問には、実際に展示を見てもらいながら答えました。まず、この建物は大日本紡績（現在のユニチカ）株式会社貝塚工場の事務所として建てられたことや、展示品として最も大きい「豊田自動織機」を見てもらい、当時の紡績工場の様子を解説しました。また、1950年代に活躍したニチボー貝塚女子バレーボールチームについて、当時練習で使用していた体育館の床板の一部、活躍の成果として受け取ったトロフィーなど、紹介している展示品についても解説し、歴史展示館が持つ役割を説明しました。生徒たちは展示室の写真を撮影し、熱心にメモを取って編集し、「地域新聞」（写真左上）を作り上げました。

姉妹都市カルバーシティ市のレオ・ザ・ライオン

ー貝塚市歴史展示館の展示資料から⑥ー

貝塚市歴史展示館では、「東洋の魔女」として知られるニチボー貝塚女子バレーボールチームの活躍が姉妹都市提携の始まりであることから、館内に姉妹都市であるアメリカ合衆国カリフォルニア州カルバーシティ市の紹介スペースを設置しています。

カルバーシティ市は、ロサンゼルス市のハリウッドに近いことから、1920年代から映画産業の中心地として知られ、かつてはライオンが吠えるオープニングロゴで有名な映画会社MGM（メトロ・ゴールドウィン・メイヤー）の拠点がありました。

上記のMGMのオープニングロゴに登場するライオンは「レオ・ザ・ライオン」という愛称で知られ、カルバーシティ市を代表するキャラクターでもあることから、歴史展示館の展示資料にもその造形を使ったものがあります。

今回紹介する姉妹都市提携直後の1965（昭和40）年5月1日（本市の市制施行日）に贈られた記念品（右写真）には、金メッキされたライオンの彫像がかたどられ、下部のプレートには「METRO-GOLDWYN-MAYER LION／THE GREATEST STAR ON THE SCREEN」（メトロ・ゴールドウィン・メイヤー ライオン／スクリーンの最も偉大なスター）と浮き彫りされています。映画のオープニングロゴに登場することから知名度が高いため、「THE GREATEST STAR ON THE SCREEN」の肩書が添えられているのでしょう。



記念品にかたどられた
レオ・ザ・ライオン

歴史展示館では、令和4年8月31日（水）より一部展示替えを行い、姉妹都市関係の資料を中心に新たな資料を追加展示しています。ぜひ、歴史展示館で実物をご覧ください。

「御財印めぐり」で御財印を集めてみませんか？

「御財印めぐり」は、泉南地域で大切にされてきた文化遺産をめぐり、地域の人びとや所有者と触れ合いながら、寺院や神社の御朱印を集める御朱印めぐりのように「御財印」を集めて「地域らしさ」を楽しむローカルな旅のことで、令和3年度に15か所の参加施設でスタートしました。令和4年3月31日（木）より参加施設が48か所に増え、貝塚市歴史展示館も参加しています。

歴史展示館の御財印（右写真）は、朱印の部分に、本市の市章、館の愛称、東洋の魔女とバレーボールのデザインを施したもので、希望者に無料で配布しています。

貝塚市内の参加施設は、歴史展示館のほか、水間駅（水間鉄道水間駅舎）（現水間観音駅）、貝塚寺内町、井手家住宅（要事前連絡）の計4か所で、それぞれオリジナルの御財印を配布しています。みなさんも御財印を集めてみませんか。



歴史展示館で配布している御財印

「貝塚市文化財保存活用地域計画」をつくります



寺内町の町並み（北町・御下筋）



重要文化財 願泉寺本堂（中町）

貝塚市では今年度から令和6年度まで、3年間をかけて「貝塚市文化財保存活用地域計画」（以下、「地域計画」と記します）をつくります。地域計画は、その名称どおり文化財の保存と活用のために市町村が立てる計画ですが、平成30年の文化財保護法改正で導入された新しい制度ですので、まだほとんど知られていないのではないのでしょうか。

文化財は我が国の歴史の中で育まれ、守り伝えられてきた貴重な文化遺産であり、これまでも保存と活用が図られてきました。それにも関わらず、改めて地域計画の制度がつけられた理由は大きく2つあります。1つは人口減少や過疎化、少子高齢化などの社会の変化です。所有者が高齢となり文化財を管理できない、後継者がいない、地域が衰退して祭りや地域独自の風俗・習慣がなくなる、など文化財に関わる問題

が生じています。もう1つは、文化財の活用への期待の高まりです。文化財は地域の魅力でもあることから、文化財をまちづくりの核として、あるいは観光資源として活用することにより、地域が大きく盛り上がると期待されているのです。

貝塚市は指定文化財、登録文化財が150件以上所在する文化財の宝庫であり、未指定、未登録の文化財も数多くあります。これら貴重な文化財の全体像を把握し、適切な保存を図るとともに、文化財の価値や魅力を伝え、地域振興につながる文化財活用の取り組みを進めていくため、地域計画づくりに着手することにしました。今年度は市域の文化財を把握するとともに、文化財の所有者や地域の声を聞いて保存と活用の課題や対策を考えます。来年度（令和5年度）は文化財の保存と活用に関する将来像や、それを実現するための具体的な事業計画を検討します。そして最終年度（令和6年度）に文化庁の認定を受けて地域計画を完成させる予定です。進捗状況は本紙でご報告していきます。



府指定無形民俗文化財 貝塚の東盆踊り（東）



千石堀城跡（名越）

古文書講座

— 市内に残る身近な古文書 —

◆御巡見様御通（ごじゅんけんさまおとおり）

今回も引き続き新型コロナウイルス感染対策として、令和4年6月8日から7月6日までの水曜日と、6月10日から7月8日までの金曜日、の2グループに分けて定員30名・5週連続の開催として、「御巡見様御通」と題し、古文書講座を開催しました。

今回の講座では、延享3(1746)年、9代將軍徳川家重の就任を受けて派遣された幕府

巡見使について、泉州に訪れた一行の動きと、岸和田藩領村々の対応を「御書付（おかきつけ）」（貝塚市指定文化財要家文書）から読み解いていきました。

幕府巡見使とは、將軍の代替わりごとに全国各地の実情を見聞し調査する見回り役のことです。決して時代劇で描かれる隠密（おんみつ）行動は見られず、人びとに知られている堂々とした道中です。その巡見使一行を迎えるに当たって、村役人の対応の仕方をまとめたマニュアルが「御書付」で、通り道にあたる村役人や、荷物を運ぶ人や馬、宿の手配を行う人たちの動きも記されています。また、巡見使からのいかなる質問にも対応できるように、殿様の日常のようすや、泉州の名産品に至るまで、村役人はすぐに答えられるように、ふところの「御書付」に書き留めて、いざという時に備えていました。

受講者の方からは「巡見使に対する村々や庄屋の様子がいかに大変だったか、興味深く受講しました。当時の記録の保存されていた事が重要だと感じました。」との感想が寄せられました。



講義に聞き入る受講者のみなさん

古文書講座68（通算320回～324回）開催のお知らせ

テーマ 永寿池の普請と水論

日時 **1班（水曜）** 第1回 10月5日、第2回 10月12日、第3回 10月19日、
第4回 10月26日、第5回 11月2日

2班（金曜） 第1回 10月7日、第2回 10月14日、第3回 10月21日、
第4回 10月28日、第5回 11月4日

いずれも午後1時15分～3時45分

会場 貝塚市民図書館2階視聴覚室

定員 各班30人（先着順）

資料代 200円

申込 希望する班・住所・氏名・電話番号を、電話・ファックス・Eメールのいずれかで、下記まで事前にお申込みください。

申込・問合せ先 〒597-8585 貝塚市畠中1丁目12-1（貝塚市民図書館2階）

社会教育課郷土資料室 TEL 072（433）7205 / FAX 072（433）7053

Eメール shiryoushitsu@city.kaizuka.lg.jp

文化財講座・展示

令和4年

◆ 9月

◆ 10月

郷土 5日・12日・19日・26日の水曜 13:15～15:45
古文書講座68 1班 「永寿池の普請と水論」

郷土 7日・14日・21日・28日の金曜 13:15～15:45
古文書講座68 2班 「永寿池の普請と水論」

◆ 11月

郷土 2日(水) 13:15～15:45
古文書講座68 1班 「永寿池の普請と水論」

郷土 4日(金) 13:15～15:45
古文書講座68 2班 「永寿池の普請と水論」

ブナ 23日(水・祝) ブナ林自然観察ハイキング

※ 郷土：郷土資料展示室・郷土資料室、ブナ：和泉葛城山ブナ林

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、上記イベントは開催延期・変更・中止となる場合があります。ご理解をお願い申し上げます。



郷土資料展示室

「貝塚市の指定文化財」展<第2期>

9月4日(日)まで
9月17日(土)から

「貝塚の民話」
絵本原画展 2022

10月30日(日)まで
11月12日(土)から

企画展「写真で見る
孝恩寺の文化財」

12月26日(月)まで

令和5(2023)年3月、和泉葛城山ブナ林は国の天然記念物指定100周年を迎えます

ブナ、イヌシデから円盤標本を採取

令和4年6月21日(火)、和泉葛城山ブナ林内で2018年の台風の影響により発生した倒木から、ブナとイヌシデ(カバノキ科クマシデ属に分類される落葉高木で、ブナ林を構成する樹木)の円盤標本を採取しました。急斜面で生育したブナ、イヌシデは根本部分が曲がっていました。標本は、年輪が偏っていると情報が読み取れないため、根本に近い年輪が中心にある部分を見極めて輪切りにしました。ブナ(直径60cm)、イヌシデ(直径50cm)の標本を4枚ずつ採取して、現在はカビが生えたりしないように乾燥させています。年輪からは、樹齢の他、その幅の違いで気候の変動についてもわかることがあります。調査の後は貝塚市立自然遊学館などで展示する予定です。



倒れたブナから
標本を切り取る様子
〔手前は切り取られた標本〕

かいづか文化財だよりテンプス77号



令和4年8月31日発行
貝塚市教育委員会
〒597-8585 貝塚市畠中1丁目17-1
Tel(072)433-7126 Fax(072)433-7053
Email: shakaikyoiku@city.kaizuka.lg.jp
※テンプスとはラテン語で「時」を意味します。
年3回発行：各1,000部



貝塚市イメージ
キャラクター
つげさん
貝塚市特産品「つげ
櫨」をモチーフとした
デザイン。